

序章 学習指導案集に寄せて

大阪商業大学 宮坂朋幸

本特集号は、滋賀県立公文書館が所蔵する特定歴史公文書等を活用した学習指導案集である。

1 本企画の概要

本紙前号 (No.12、2022年3月) に掲載された6本の学習指導案は、令和3年度『歴史公文書が語る湖国』授業活用研究会の成果であった。「県政150周年記念」を冠したこの企画は、令和4年度に引き継がれて公文書館所蔵資料授業活用研究会となった。研究会は、第1回を6月13日、第2回を8月25日、第3回を11月8日にオンラインで行った。

第2期となった本企画の特色は、以下3点である。

①活用する資料範囲の拡大

第1期では、『歴史公文書が語る湖国』を手がかりとして、公文書館所蔵資料を授業で活用することが目的であった。第2期では、活用する資料の範囲を同書掲載に限定せず、同館所蔵資料全体に広げた。結果として、鉄道蒸気車駛走図 (3頁) や投票所式の図 (6頁)、石山寺観光パンフレット (14頁) 等、文字資料以外の資料も集まり、視覚に訴える指導案になった。

②小学校の授業指導案の開発

第1期では、中学校、高校の歴史学習や総合学習用の指導案を開発したが、第2期では、小学校の指導案にも取り組んだ。大津市立堅田小学校の渡晋一教諭が当研究会のメンバーとなり、小学校第4学年社会科「地域の発展につくした人々」の単元で、明治29年 (1896) に起きた大水害を題材にした授業の指導案を開発した。小学生に文字資料の読解は困難と判断し、写真資料を活用したところに特徴がある。

③公開研究授業、シンポジウムの実施

第1期に開発した指導案に基づいて、県下の高校で公開研究授業を実施し、その後、小・中・高校教員対象のシンポジウムを開催した。詳しくは本紙別稿 (15頁) に譲るが、保存状態が良好な特定歴史公文書や写真資料は、ICTと相性が良いことも確認された。

【指導案集の構成】

指導案は、下記の通り、災害・人権・政治・観光・交通の5テーマを小・中・高校に振り分けて開発した。

第1章 滋賀県における文明開化 (高校／交通)

第2章 立憲制国家の成立 (中学校／近代の政治)

第3章 地域の発展に尽くした人々 (小学校／災害)

第4章 姉川地震を題材に想定する防災と減災 (中学校／災害)

第5章 近代滋賀の貧困対策 (中学校／人権)

第6章 滋賀県における名所・史跡の観光活用の歴史

(高校／観光)

2 本企画への期待

「県政150周年」が追い風となり、本企画が2期目を迎えられたのは幸いであった。委員の先生方はより熱心に教材研究にあたられ、研究会での議論も熱を帯びたものになった。教える側の熱は学ぶ側に伝達する。各資料の魅力を十分に理解した先生方の的確な導きによって、その資料ににじむ先人たちの苦闘を体験する生徒たちは、教育基本法第1条「教育の目的」で謳われる「平和的な国家及び社会の形成者」に近づいていくだろう。そんな意義を持つ本企画の、今後の継続・拡大が望まれる。

そのためにいくつか提案したい。まずは歴史資料の「加工」とweb公開である。これには歴史資料の専門家が当たるのが望ましいため、公文書館に学校支援担当を配置されたい。併せて教育委員会事務局にも歴史資料活用担当を置き、相互に連携する。幸い本県は公文書館と県教委が同じ建物内にある。この利点を最大限活用したい。そしてそこで開発された教材や指導案を、大学での教員養成や現職研修、滋賀の教師塾のカリキュラムに組み込んで、先生方が歴史資料に触れる機会を増やす。県下で「歴史」への注目が集まっている今、「歴史から学ぶ」ことについて、一歩踏み込んで考えてもらえれば幸いである。

【令和4年度公文書館所蔵資料授業活用研究会】

会長 宮坂朋幸 (大阪商業大学)

委員 渡晋一 (大津市立堅田小学校)

小林美希 (近江八幡市立八幡中学校)

山田鋼平 (甲賀市立水口中学校)

七里広志 (草津市立老上中学校)

山本茂雄 (滋賀県立膳所高等学校)

北川和樹 (滋賀県立大津高等学校)

事務局 久保田重幸 (滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課)

堀圭一郎 (滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課)

御厨篤志 (滋賀県教育委員会事務局高校教育課)

大月英雄 (滋賀県立公文書館、編集担当)